

一般質問

高齢者の「生涯現役社会構築」への参加を

島田和泉 議員

問 就業や社会活動に意欲と能力があれば、年齢に関係なく活躍できる生涯現役社会に向けた環境整備が必要では。

答 シルバー人材センターを中心とした活動で、就業先の開拓等の専門部署を設け積極的に展開している。

「ふじみ野版CCRC」導入の可能性

問 日本版CCRCの市の検討状況は。

答 導入は考えていない。「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定

し、若者やファミリー層に選ばれ続けるふじみ野市を目指す。

問 将来的な高齢者向け医療・介護事業への取り組みは。

答 医療・介護は地域包括ケアシステムの構築を進めている。

インターネットリテラシーへの取り組み

問 インターネットを正しく利用するための現状

把握や情報マナー教育は。

答 市内の小中学校でのトラブルは減少傾向である。情報マナー教育は、各学校ごとに児童生徒、保護者への講演会を実施している。教職員は研修会等で情報を共有し、今後も安全な利用方法を周知、安心して学べる環境作りに努める。

遊歩道を整備し健康づくりに活用を

堀口修一 議員

問 「元気・健康都市宣言」をふまえて、健康増進のための環境整備という位置付けのもと、市全域をめぐ

る遊歩道の整備を行うべきでは。

答 遊歩道について



水路の上も遊歩道に

は、緑の基本計画における「緑のネットワーク」として、整備強化に取り組んでいる。これからも

市民ニーズの把握などに努めて、さらなる充実を図っていく。

問 各地で行われているウォーキングラリーは、自らの地域を見つめ直すよい機会ともなる。本市における開催は。

答 ウォーキングラリーは、スポーツ推進施策の中で検討していきたいと考えている。

「親子造形センター」の整備を

問 障がい者や親子、子

どもが、アート体験を積むことができる「親子造形センター」を整備するべきでは。

答 子どもの頃から、表現手法として絵や粘土などの造形活動を体験していくことは、創造性や自主性を伸ばし、感性を育むためにも非常に重要だと認識している。文化振興計画策定の中でそういった場やアート発信拠点の整備を検討していく。

保育所誘致で待機児童対策を

小林憲人 議員

問 認可保育所等を誘致するにあたって、保育所の空白地域がないような検討を。

答 まず、整備する必要性を検討し、その上で、市全体の保育需要等のバランスを勘案して配置を検討する。

一歩踏み込んだ学校評価の導入を

問 地域協働学校を実現



するにあたり、自己評価や学校関係者の評価に加

え、第三者評価も加えるべきでは。

答 第三者に評価をもらい、問題点を把握し教育の質の向上につなげることは必要。地域協働学校導入の進捗に併せて検討したい。

切れ目のない高齢者支援を

問 24時間の訪問介護看護事業をサービス付き高齢者住宅が担っている。事業拡充のために住宅の誘致を図っては。

答 誘致に関し、市は直接関われない。しかし、

地域包括ケアシステムを構築する上で、住宅設置者との連携は必要と考える。

笑い元気で健康づくりを

問 笑いは最も身近な健康法であり、健康長寿に効果があるとの研究結果が存在する。医療費や介護保険給付費の抑制につながる可能性もあるのでは、全市的な取り組みを。

答 元気健康づくりを推進するにあたって、さらに力を入れていきたい。

国民健康保険広域化における市の対応

伊藤初美 議員

問 平成30年度に国民健康保険の運営主体が市から県に移管される。国保税が値上げにならないよう法定外繰り入れは継続すべきでは。

答 市に求められる納付

金に必要な額と現在の保険料率には乖離があると予想されるので、税率を改正するにしても激変緩和の観点から一定程度法定外繰入金に依存せざるを得ない。

保育所の待機児童対策

問 待機児童数の多い0歳から2歳の定員の拡大を、公立保育所でできないか。

答 施設の面積や保育士等配置基準を考慮し、定員を弾力的に運用するなど柔軟に対応している。

問 育児休業を取得でき

ない家庭も多い。公立保育所で生後2カ月児童の受け入れを実施しては。

答 どのような条件や体制整備が必要か調査・研究していく。

障がい者スポーツの促進

問 障がい者が日常的に参加できるスポーツの機会を増やすべきでは。

勝瀬苗間通り2号線の整備を

谷 新一 議員

問 大井苗間第二地区内の都市計画道路・勝瀬苗間通り2号線の整備の進捗状況は。

答 本路線と上沢勝瀬通り線との交差点位置を砂川掘の上を経て、弁天橋交差点に変更する案がある。現在、地区計画の検討に併せて道路位置及び線形の見直しを進めている。

組体操の安全確保

問 市内小中学校で行われているピラミッドやタワーと呼ばれる組体操については、何を判断基準として実施されているのか。

答 望ましい人間関係の形成や仲間との協力、責

任といった態度の育成を目指して実施している。

なお、小学校は担当学年の教員、中学校では体育教員が中心となり、技の企画立案を行い、安全対策を充分行った上で、管理職の判断のもと実施



で手の骨折が2件、タワーで手や足の骨折が2件ある。その他、手や足、頸椎等の打撲、捻挫、挫傷等である。

問 来年度から新規事業としてスポーツ教室を開催する予定である。

三芳スマートIC大型車両通行問題

問 周辺道路の整備なしに、大型車両通行量増加に対応できるのか。

答 大井中学校前の市道は、交通量の増加が予想されるアクセス道路に含

まれている。県や三芳町と協議を進めていく。

幅員の狭い大井中学校前

※地域協働学校 学校・家庭・地域の三者が協働しながら、子どもたちの豊かな成長を支え、地域とともにある学校づくりを進める仕組み。別名：コミュニティ・スクール

※CCRC（継続介護付きリタイアメント・コミュニティ） 地方にバリアフリーの高齢者向け住宅をつくり、第2の人生を楽しめるようにする、高齢者居住コミュニティのこと。